

事業所における自己評価結果(公表)

【児童発達支援】

公表：2022(令和4年)年 2月 22日

事業所名: 重心多機能型エンジェルウィングス

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○	・ベッドやマットの配置を日々、変更して工夫している。 ・コロナ等、感染対策のため警戒レベルが上がった際には、人数制限を行うなどして対策している。	・利用人数や物の配置によって1人のスペースの広さが狭くなることがある。 ・必要定員を満たすにあたってスペースが不十分である。2階を利用して対応している。 ・移転を検討している。 ・R2年度の課題は感染対策であった。今年度は感染対策の取り決めを作成し、物理的に改善できないスペースの問題に対して、ビニールカーテンを設置する。児童間の距離を保つなどの対策を行っている。
	2 職員の配置数は適切であるか	○		・休みの関係で足りない部分もあるが、1人1人付ける状態ではある。	・その日の出勤に影響を受けている。 ・利用者が多い日には人員が不足した状態になることもある。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか		○	・玄関など、スロープを作り工夫している。 ・子ども達の安全を考えて実施している ・人工呼吸器の児童が多いため、機械操作が安全にできるよう工夫している。	・マットを上げたりしてスペース確保が必要な時がある。 ・2階との伝達が困難な時がある。 ・昨年と比べると改善している部分がある。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか		○	・清潔には気を付けている。活動に応じた空間の確保を行っており、必要に応じてマットの移動等を行っている。 ・消毒等を随時、行っている。	・体温調整が難しい利用児が多く、環境について不安定である。 ・車椅子の置場が無く困るときがある。 ・まだスペースの確保として不十分なのところがあると思う。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		・支援・ケア会議の実施や日々のミーティングで行っている。 ・カンファレンスを用いて広く職員が関わることができている。 ・連絡等、随時ある。	・広く職員が参画できるような話し合いの場がもう少し必要。 ・できるだけ、このようにしていきたいと思っているが、業務上、困難な時がある。 ・R2年度に比べてPDCAサイクルを意識した業務改善を行えるようになったが、まだそのシステムが安定していないため、令和4年度の改善項目としていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		・保護者の意向を確認し、その都度、対応している。 ・保護者より意見が出ると話し合いを設けている。	・全ての課題に対してすぐに対応できていないが、優先順位を話し合い実施していく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか		○	・しっかりと評価及び改善できているので、今後、HP等で公表していきたいと思う。	・R2年度の課題であったHPが完成した。その中で事業所の理念、方針、支援の内容など保護者の方々へ紹介できるようになった。 ・今年度からはHPによる公開を予定している。 ・昨年はHP公開できなかったが、結果は配布し保護者に報告している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	・外部評価をする人がいない。 ・アドバイスを頂いているが、しっかりとした外部評価はない。	・R2年度の課題として、他事業所に外部評価実施について情報収集することを挙げたが実施できなかった。 R4年度、外部評価について情報収集を行って行く。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		・他の施設への研修希望を募ったり、オンライン研修なども適宜、案内している。 ・管理側からの要請、職員からの希望を考慮して実施している。	R3年度 1 児童発達管理責任者研修 2名 2 医療的ケア児支援者養成研修 1名 3 事業所内「虐待・身体拘束防止研修開催 4 事業所内感染管理研修開催 5 他事業所見学研修 3名 6 臨時案内があったオンライン研修 希望者 まだまだ計画的に実施できておらず、体系的な学習機会を提供できていないが、R2年度より向上していると思われる。R4年度はその点が改善できるよう取り組んでいく。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		・日々、課題について話を上げて分析に取り組みしている。 ・作成できている。 ・利用者毎に担当者を決めて、モニタリング前に支援・ケア会議を行うようにした。その結果を個別支援計画に反映する仕組みを作った。	・R2年度に比べて、職員全体で個別支援計画作成、モニタリング、評価に取り組み仕組みができたが、安定的に行っていないため、R4年度の課題とする。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		・成長過程のツールに合わせ発達段階を確認できている。	R2年度に引き続き「子どもの発育・発達 目安表」を発達評価として活用しているが、具体的な評価・発達支援に活かされていない状況である。R4年度の課題とする。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか		○	・個々に応じて計画できている。	R2年度の反省として、「家族支援」「地域支援」に対して視点が乏しいということも挙げた。日々の支援や支援・ケア会議の中では家族アセスメントを行っているが、具体的に個別支援計画に反映するところまでできていない。また、地域支援に関しては、事業所内で学習する機会を設け、その視点を持ちながら評価していけるようにしていく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		・計画に沿って支援を行い、状況を記録できている。 ・支援の状況をふまえて支援・ケア会議を行い、評価をお個別支援計画に反映するように実践している。	・この点に関して、R2年度から考えると、個別支援計画を軸にして話し合いを持ち評価していく仕組みができていく。
適切な支援の提供	14 活動プログラムの立案をチームで行っているか		○	毎月、活動内容の計画を立てている。	・R3年度より、活動プログラムに関しては療育担当で作成しているが、チーム間では行っていない。R4年から、担当者間でも、担当児童に必要な活動プログラムを考えていけるようにしていく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		・固定化しないように1週間単位で計画している。 ・1週間が変わるよう工夫されている。	・療育担当チームが定期的に会議を行い、活動プログラムを考案している。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○		・体調やケアの時間など状況に合わせて実施している。	・ケア内容が利用児それぞれ違うので、集団活動での計画作成が難しい。 ・コロナ禍なので、集団活動が難しい時もある。 ・上記で意見があるように集団活動が難しい場合があるが、R4年度は個別支援計画にこの視点を取り入れて実施していきたい。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		・リーダー制を取り入れて実施している。	・送迎の時間の影響で朝のミーティング出勤者が参加できないことも多く、まだ十分ではないと言える。しかし、利用児到着後の朝の会でその部分を補う情報交換を行っている。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○	・支援の振り返りを行っていない日もある。 ・メールなどで共有できるようにできている。	・支援後は勤務形態が異なる職員との振り返りの作業が難しいという現状がある。常勤ではその都度、行っているが業務の1つとして定期的な振り返りにはなっていないためR4年度の課題となる。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		・記録を毎日書き、引き継ぎを行っている。	R3年度は記録の見直しを行い、個別支援計画や医療的視点に対応できる記録を作成し使用している。R4年度は再度、記録を見直しつつこの項目に対応できるようにしていく。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		・受け持ちは児の状況をまとめている。	・担当者の出勤状況により定期的に行うことができない時もあるが、モニタリング時期に合わせて担当者で支援・ケア会議を行う形はできている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		・児発管が参加して情報共有を行っている。 ・子ども達の状況を把握できるように努めている。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか		○		・相談支援専門員とは定期的に情報交換、共有を行っているが、母子保健、子育て支援関係者との連携は乏しい。R4年度、地域支援の視点を持つことが課題であるため、連携の拡大を図っていく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		・全ての機関と連携はできていないが、必要時は連絡を取り合っている。	・上記に関連して地域の保険、障害福祉、保育、教育機関との連携を行っていない。こちらもR4年度の課題とする。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		・緊急連絡先を作成し体制を整えている。	主治医や訪問看護への連絡、情報共有は行っているが、その他、リハビリテーション、地域連携室などの連絡体制はまだ不十分である。対象児を取り巻く環境を整理してどの機関との連携を急がなければならないか検討していく。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○	・連絡帳等でお互いに情報を共有している。	・他の施設や学校との連絡はできておらず、保護者から情報で確認している。 ・R3年度、特別支援学校への移行支援1例を経験した。初めてのことで支援方法がよく分からず文書で依頼する形となった。今回、相談支援専門員の方から移行支援の仕組みを教えてもらったため、R4年度に活かしていく。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか		○		上記に関連して、R3年度は当事業所としては、適切な移行支援を行うことができなかったが、併用利用している事業所がしっかりと移行支援を行ってくれた。この経過をR4年度に活かしていく。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		・他施設に研修に行き、違いや工夫していることを学ぶことができた。	・コロナ禍が続いているため、他事業所での外部研修や連携が思うようにできないという現状であるが、1カ所、見学研修を行い助言を受ける事ができた。しかし、3名の参加のみであったため、R4年度、コロナ感染の状況を見ながら可能な限り外部研修を拡大していく。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	・クリスマス会などで交流をしている。	・コロナ禍のため、機会が無いを持つことが難しい。しかし、近隣の小学校と幼稚園を併設している園長と小学生、幼稚園生との交流が行えるよう将来的に考えていく内容を話し合った。 コロナの状況が影響するが、訪問学級の小学生が多いので、その小学校との交流を行い授業体験など進めて行きたいと考えている。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか		○		・地域支援の視点を持つため、また地域の状況を知るためにもそのような会議に参加することが望ましいと思うが、小規模の事業所で人員に余裕がなく支援で精一杯となっている。 行政から様々な通知があるが、それにもなかなか対応できない。このような小規模事業所がしっかりと地域に根ざしていけるよう、協議会の状況を把握できるようなサポートの仕組みがあったらと考えたい。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		連絡帳や送迎、メールなどを活用して伝えている。	R2年度と比較して、左記のツールを使用しながら保護者との共通理解ができるようになったと思われる。R4年度はさらに質を高められるよう取り組んでいく。
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか		○		・プログラムとして計画してのペアレント・トレーニングはできていない。 ・ペアレント・トレーニングを行っている方から研修案内があったが、事業所としてその点を深められる状況になかったため、この項目の支援に到達していない。どのようにペアレント・トレーニングを組み込んでいくかR4年度、検討していく。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		・契約時や必要時にプリント、メール、電話等を使用して説明を行っている。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		・保護者の意見を確認して同意を得ている。適宜、追加、修正を行っている。	実地指導で保護者への公布日の明記について指導があったため、R4年度、その点を改善していく。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		・送迎時などに聞き取りを行っている。 ・相談があった際にはその都度、対応できている。	R3年度、評価、モニタリング、個別支援計画修正、実施という仕組みは実践できた。しかし定期的、計画的な面談を行うというところまで実践できていないため、R4年度の課題とする。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		・年に1回、クリスマス会と同時に行っている。	・コロナ禍のため難しい。 ・クリスマス会で保護者間での挨拶の場は設けられたが、保護者同士のつながりを支援するまでには至っていない。 ・開催は必要だと思うが、保護者のことを考えると負担がないような開催計画を考える必要がある。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		・メール等で相談、申し入れを受けた際にはすぐにスタッフで話し合い対応ができた。その後、スタッフ間での情報共有が難しいがメール等でその日に周知できている。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		・1回/月に会報を発行している。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		・メールでの情報共有する際は伏せ字にして特定を防ぐようにしている。	・個人情報保護の観点から、メール連絡、連絡帳の写真掲載、HPの写真掲載など同意書での確認を行った。また、写真の取扱いについて弁護士相談も行った。 R3年度、個人情報保護に関する問題は起きていない。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		・送迎時や電話、メール等で保護者との情報共有を行っている。	・送迎時の保護者とのやり取りを支援のために大事な情報交換の場と考え、職員と共に取り組んでいる。また、支援中、言葉では意思伝達できない児童に対して代替的なメッセージをしっかりと受け止められるよう職員間で情報交換、共有している。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	・クリスマス会は地域の方々の協力があり実施できた。	・クリスマス会などを通じて、少しずつ地域との交流を行っているが、まだ行事に招待できるところまでいっていない。 ・コロナの動向を見ながら検討していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ不十分であるが、順次、マニュアル作成中している。</li> <li>・感染対策はマニュアルを活用している。</li> <li>・災害時のマニュアルについては委員会を設置し話し合いを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯マニュアルの策定はまだできていない。引き続きR4年度への課題とする。</li> </ul>
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・火災については2回実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波や地震等について担当者は配置し話し合いをしているが、マニュアル整備までに至っていない。こちらも引き続きR4年度の課題とする。</li> </ul>
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか			<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防接種の確認をしていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度、予防接種情報の確認、記録できる仕組みを作る。</li> </ul>
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の利用児でアレルギー児童はいないが、意識している。</li> <li>・医師の指示の基、注入・食事介助を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントシートを用いたの聞き取りでアレルギーに関する項目を設けているため、その有無については把握できる。</li> <li>・該当するケースが出てきた場合、医師との連携を行っている。</li> </ul>
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・閲覧できるようにファイリングされておりメールで共有している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットに対して、発生時、まず初期対応を行い、管理者に報告し、次に必要な措置を行う。その経過はヒヤリハット報告書に記載し、職員間で共有するという仕組みはできた。しかし、ヒヤリハットの種類・分析迄には至っていない。</li> <li>・引き続き、この方法で対応しつつヒヤリハット、事故の発生を未然に防げる仕組みにしていく。</li> </ul>
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回、事業所内勉強会を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4、2月に理事2名で「障害者虐待防止・権利擁護研修」を受講した。今年度中に伝達講習を実施する。</li> <li>・R4年、4月より虐待防止委員会設置が義務化されるため、その準備を行いつつ職員全員で意識を高め、虐待、身体拘束の発生防止していく。</li> </ul>
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際、身体拘束のケースがないため実施していないが、身体拘束について職員全員で学習し、やむを得ない場合の対応、保護者への報告、計画への記載行っていく。</li> <li>・ハギーの固定や移動時の脱臼予防のバンド装着は安全のために行うが、そのままにならないよう安全と身体拘束の両面に注意しながら実施している。</li> </ul>

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)